まずは基本を
知っておこう!

第1章

疑問詞とは何でしょう?

疑問詞とは何でしょう？

Q. 疑問詞とは?

A. 疑問詞とは「疑問を表す詞」のことを言います。

Q. 疑問詞にはどんな種類があるのですか?

A. 疑問詞には3つの種類があります。

①疑問代名詞

②疑問形容詞

③疑問副詞　です。

Q. 疑問詞の3つの種類とはどのようなものですか?

A. 疑問詞の3つの種類について説明します。

①疑問代名詞とは「疑問を提示し、かつ、名詞の代わりとして用いられる詞（ことば）」のことを言います。

Who（誰）

What（何）

Which（どれ）　がそれです。

②疑問形容詞とは「疑問を提示し、かつ、事物を形容する詞」のことを言います。

What（どんな――）

Which（どれ――）　がそれです。

③疑問副詞とは「疑問を提示し、かつ、名詞以外の言葉を修飾する詞」のことを言います。

When（いつ～）

Where（どこで、どこへ、どこに～）

Why（なぜ～）

How（どのように～）　の4つです。

これで「疑問詞」の全ての種類について、ざっとご紹介したことになります。それでは、これらの「疑問詞」を使って「疑問文」を作る方法について、これからご説明していきます。

準動詞を学ぶ前に知っておきたいこと

いよいよ準動詞の各論へと入っていくわけですが、その前に少しだけ文法上の基本事項を確認しておきましょう。本書では、みなさんが無理なく学べるようにと、なるべく分かりやすい解説を心掛けたつもりですが、準動詞を勉強していくには、ある程度の文法的基礎知識がどうしても必要になってきます。そういうわけで、ちょっとこちらをご覧ください。

まず、今後の文法解説にあたって必ず知っておいていただきたい「お約束」が、以下の略号です。

略　号	
S=Subject	**主部／主語**
V=Verb	**①述語動詞②本動詞**
	v=助動詞（v+V②＝V①）
O=Object	**目的語**
C=Complement	**補語**
IO=Indirect Object	**間接目的語**
DO=Direct Object	**直接目的語**
M=Modifier	**修飾成句**

さらに、言葉の種類を表す「品詞」についても簡単に確認しておいてください。

品　詞

①名詞……人、もの、ことの名前を表す詞
②代名詞……名詞の代わりに用いる詞
③形容詞……事物を形容する詞　すなわち、その性質や状態を表す言葉。
④動詞……動作や状態を述べる詞
⑤助動詞……動詞を助ける詞
⑥副詞……付録、おまけの詞、副(そ)える詞
⑦前置詞……名詞（句）の前に置く詞
⑧接続詞……接続する詞
⑨間投詞……間に投じ、感情を表す詞

疑問文は5種類だけ
覚えればいい!

第2章

疑問文とは何でしょう?

疑問文とは何でしょう?

Q. 疑問文とは?

A. 疑問文とは、疑問を表す文で、……? という具合にクエスチョン・マーク「?」で終わります。

Q. 疑問文には、どのようなものがあるのですか?

A. 疑問文には大きく分けて、

① 疑問詞で始まるもの

② 疑問詞で始まらないもの　　の2種類があります。

Q. 上の2種類の疑問文にはどういった特徴があるのですか?

A. 上の2種類の疑問文にはそれぞれ次のような特徴があります。

① 疑問詞で始まるものには、

文頭に疑問詞 [who, what, which, when, where, why, how] **を置きます。**

② 疑問詞で始まらないものにも特徴はありますが、用いられる動詞の種類、形態によってその特徴が異なるので、詳しくは後でお伝えします。

Q. 文中で用いられる動詞の種類や形態によって分類すると、疑問文をどのように分類することができるのですか?

A. 文中で用いられる動詞の種類や形態によって疑問文を分類すると、「①疑問詞で始まるもの」と「②疑問詞で始まらないもの」の2種類の疑問文のうち、「②疑問詞で始まらないもの」をさらに4種類に分類することができ、次のようになります。

［5種類の疑問文］

①疑問詞で始まるもの

②そうでないもの

②-a　be動詞　　を用いるもの

②-b　助動詞　　を用いるもの

②-c　完了形　　を用いるもの

②-d　一般動詞　を用いるもの

Q. 上の②-a～dの動詞の種類、内容について教えてください。

A. 簡単にご説明しましょう。

②-a be動詞を用いるもの

動詞V ┌ be動詞 ┌ 状態「～である」
　　　└ 一般動詞 └ 存在「存在する」

be動詞の文法上の位置づけは、上のようになります。2つに大別できる動詞のうちの1つです。さらにその意味内容としては、状態「～である」と存在「存在する」の2通りあります。

②-b be動詞を用いるもの

助動詞は「動詞を助ける詞」です。動詞にいろいろな意味を添えます。

will, would
shall, should
can, could
may, might
must
ought, to　　などがそれです。

②-c 完了形を用いるもの

完了形は「過去から基準時にわたって、いかなる動作、行為を

したか」を表すためのものです。
基準時が現在ならば、現在完了 have [has] + Vp.p.（過去分詞）
過去ならば過去完了 had + Vp.p.を用います。
また、それぞれ文中において、
①「完了」②「経験」③「継続」のいずれかを表します。

②-d **一般動詞を用いるもの**

動詞V
- be動詞
- 一般動詞……be動詞以外の動詞